



令和4年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

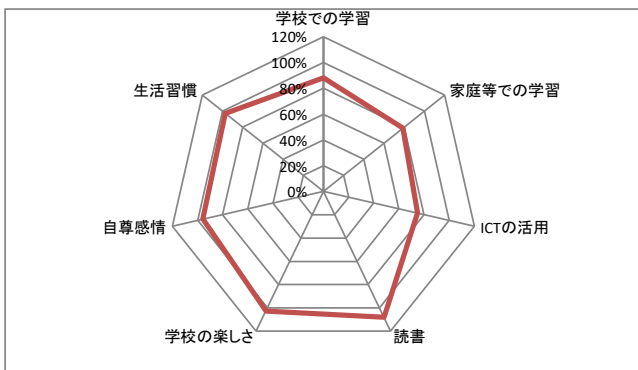
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	○「互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」問題の平均正答率が高かった。 ○「人物像や物語の全体像を具体的に想像する」「漢字を文の中で正しく使う」問題の平均正答率が低かった。	下回っている
算数	○「数量が変わっても割合は変わらないことを理解している」「正三角形の性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる」問題の平均正答率が高かった。 ○「二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる」「加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ポイント数の求め方と答えを記述できる」問題の平均正答率が低かった。	下回っている
理科	○「提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる」「観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる」問題の平均正答率が高かった。 ○「器具の名称を書く」「自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できる」問題の平均正答率が低かった。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と回答している児童の割合が、昨年に続き全国平均、本県平均を上回っている。高い規範意識と人権感覚を養うことができている。

○「学校の授業時間以外に、1日当たり平日は1時間以上、土曜日や日曜日など休日に2時間以上勉強する」と答えた児童の割合が、昨年に続き全国平均、本県平均を下回っている。学校で作成した家庭学習スタンダードを積極的に活用し、自主学習の習慣が定着するようにする。

○「5年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用した」と答えた児童の割合が低かった。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 国語科の漢字、算数科の計算、理科の実験器具の名称を答える等の基礎的な学習は、前学年までの復習を定期的に行う。
- 「授業におけるICTの効果的な活用」を今後も一層推進する。また、有効なドリルアプリを積極的に活用するようにする。
- 書く活動において思考内容を焦点化・可視化するシートなどで活用する。
- 考えの広がりや深まりを自覚できるよう、話し合いの後にノートなどで「考えの再構築」する時間を設定する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 学校で作成した家庭学習スタンダードを積極的に活用し、児童の自主学習の習慣が定着するようにする。
- 学校、学級、学校通信やホームページ、懇談会を通じて、本校の取組や課題を保護者に周知し、協力を得るようにする。
- 家庭学習に適したドリルアプリを保護者に紹介し、積極的な活用を促す。